
アブソル先生とみぞれ雪先生へのインタビュー記事

ポケポケパン

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

アブソル先生とみぞれ雪先生へのインタビュー記事

【Nコード】

N9931I

【作者名】

ポケポケパン

【あらすじ】

今回はアブソル先生とみぞれ雪先生へのインタビュー記事です。

皆さま、お久しぶりです。

先月はいろいろと仕事もあり、時間が取れませんでした。が年末に向けてまでは少し余裕があると思います。すでにリニョール記念企画としては成り立たないのでないかと内心思ってもありますが、それでもご協力を承れる限り続けさせていただきたいと思っております。

今回は「ポケモンハンタージユンの冒険」でおなじみのアブソル先生と「絆の冒険記」でおなじみのみぞれ雪先生お二方にインタビューをさせていただきました。

それではお楽しみください。

2

・先生はこの「小説家になろう」サイトをどうやって知りましたか？
アブソル先生

「人間からポケモンになる話を探していたら、このサイトに行き当たりました。」
みぞれ雪先生

「とあるポケモンの種族名で何気なく検索したら、とある小説に出会いました。……それがこのサイトを知ったきっかけですね。」

・ポケモンのファンフィクションを書こうと思ったきっかけはなんでしたか？

アブソル先生

「アニメでポケモンハンター」が出てきまして・・・ハンターを主人公にした話を書きたいな、と思ひまして。」

みぞれ雪先生

「元々、自分で物語を考えるのが結構好きだったんですが、ちょっとそれを誰かと共有してみたいなあ、と思いついて……。ポケモンが題材なのは、ポケダンをやって感動したからです。」

・先生の年齢と出身地を教えてください。（任意で構いません）

アブソル先生

「兵庫県の県立の現役理系高校生です。現在十八。受験生つてことですよ（笑）。」

みぞれ雪先生

「現在16歳で、東北地方のとある県に住んでいます。……ちなみに一応女ですよ（笑）。」

・先生のポケモンのファンフィクションを執筆する以外の趣味を教えてください。

アブソル先生

「そうですね……。カードゲームや……。夜のランニングですかね」

みぞれ雪先生

「好きなアーティストの曲を聞いてると癒されますね。」

アブソル先生

「今のアニメのOPの「ハイタッチ」です。聞くと元気が出ます」

みぞれ雪先生

「金銀とポケダンの音楽は特に好きです。……一番は選べませんね（笑）。」

・これからポケモンの種類は増えていくと思いますか？
アブソル先生

「ええ。必ず増えると思いますよ。ポケモンが滅ぶまで増加するで

しょう（笑）」

みぞれ雪先生

「増えると思いますね。むしろ増えてほしいです！」

・先生は話を執筆する際、紙に書き留めますか？あるいはPC・携帯に直接書き込みますか？

アブソル先生

「紙には書き留めず、そのままパソコンで入力します。」

みぞれ雪先生

「昔は紙に書いていましたが、ケータイに書いてるうちにだんだん変わってしまったため、やめました。今では頭の中で場面を映像化して、それをケータイに書き込んでいます。」

・キャラクターを考案する時にヒントを得たもの、あるいはアイデアをもらったことはありますか？

アブソル先生

「アイデアは日常生活からもらっています。また他の先生方の小説からもアイデアを得ることもあります。」

みぞれ雪先生

「そのポケモンの種族のイメージは参考にしますが、基本的には一からキャラ作りをします。」

・一話を書くのに有する時間はどれくらいですか？

アブソル先生

「そうですね・・・一日40分程度書いています。一話書くのに大体三日かかります。」

みぞれ雪先生

「早くても三時間がかかりますね。展開を練っていると、休日がつぶれることもあります（汗）。」

・ポケモン小説以外でポケモングッズに関するちよつと誇示できるようなことはありますか？ あるいはポケモンに関して語れるエピソードなどありますか？

アブソル先生

「実は高校一年生のときゲームをやっていたぐらいしかポケモンとの接点は無いですよ。グッズも持ってませんし。」

みぞれ雪先生

「部屋においてあるゼニガメのぬいぐるみが宝物です（笑）。」

・ポケモンそのものにはいつ、どういったように出会いましたか？

（例：幼稚園の時にテレビで、小学生の時にゲームボーイでなど）

アブソル先生

「小学生の時にクラスで。」

みぞれ雪先生

「幼稚園の頃に、近所で流行りました。ゲームは初代からプレイしてました。」

・同じポケモンファンフィクション作者として意識、あるいは刺激をもらった作者さんたちはいましたか？

アブソル先生

「バクフーン先生、ゆゝすけ先生、プラネット先生、赤神零先生・

・と挙げていったら切が無いですね。特にバクフーン先生の小説を読んだのが小説を書くことと思っただきっかけですし。」

みぞれ雪先生

「たくさんいらっしゃると照れくさいのでお名前は出せませんが（ごめんなさい）、連載当初は戦闘シーンの描写が苦手だったので、主にその点で他の作者様の作品を参考にさせていただきました。」

「

・執筆中に特に気をつけているものはありますか？

アブソル先生

「なるべくオリジナルのキャラを登場させようと思っていました。特に女性キャラは型にはまった人物にならないように注意を払っています。またポケモンバトルは単調にならないように注意しています」

みぞれ雪先生

「ストーリーがゆっくりと進行するため、読者様に、これまでの話の内容をしっかりと覚えておいていただけるように、気をつけているつもりです。」

・実際にポケモンの世界に行けるとしたならば、手持ちにしたい最初のポケモンはなんですか？（御三家には限りません）

アブソル先生

「そうですね・・・アブソルです。やっぱり（笑）」

みぞれ雪先生

「どうしても可愛さを意識してしまいますね（笑）。イーブイから始めて、シャワーズやエーフィ辺りに進化させたいです。」

・作品を投稿、連載していて嬉しかったことはなんですか？

アブソル先生

「感想が書き込まれているとやはりうれしいですね。ああ、見てくれているんだと思うと疲れも吹っ飛びます。」

みぞれ雪先生

「感想をいただけただけの時は、本当に嬉しいです。特に、感動したと言っていただけだったら、私が感動してしまいます（笑）。小説を書いて良かったと、心から思えますね。」

・思い入れの深い話とキャラクターを教えてください。（例：一番書くのに苦労した、一番楽しかった、いろいろと試行錯誤をしたが結局断念したプランなど）

アブソル先生

「一番思い入れが深いキャラは・・・エリカです。彼女には人間の持つ深い業を投影していますし。影の主人公ですから。」

みぞれ雪先生

「特に頑張って書いたのは、主人公セナの戦闘シーンです。スイクンなどのレベルが上の相手に、特殊能力も何もないキャラクターがどのように挑むのか、かなり考えました。他には、セナとヴァイスが喧嘩してしまったお話や、コラボでも活躍した“焼き鳥事件”なども、思い入れがあります。」

・もうすぐクリスマスですが、今一番欲しいものはなんですか？

アブソル先生

「ハートゴールド、シルバーソウルですね。ま、無理ですが(笑)」

みぞれ雪先生

「我が家にWiiがないので欲しいのですが、その前に、ゲームをする時間が欲しいです(汗)。そろそろ進路を考えなければなりませんので……。」

・好きなポケモンを五つ教えてください。

アブソル先生

「アブソル、ボーマンダ、ダークライ、ジュペッタ、ユレイドルです」

みぞれ雪先生

「思い入れのある、ゼニガメ、ヒトカゲ、ランターン、シャワーズ、リザードンです……が、選ぶの苦労しますね(笑)。」

・先生にとってポケモンとはなんでしょう？

アブソル先生

「受験勉強や日々の疲れを癒してくれるマスコットの存在です。」

みぞれ雪先生

「ずっと身近にあったものなので、“友達みたいなもの”……です

ね。これからも、ポケモンとは友達です（笑）。」

・オーキド博士よろしくポケモン川柳を一ついただけますか？（これは任意で構いません）

アブソル先生

「大空に やがて飛び立つ ポーマンダ」

みぞれ雪先生

「HGに色違いのマントインが出てきたのですが、攻撃が急所に当たり、ゲットならずでした（泣）……というわけで、

『色違い 捕まらないなら 出てくるな』

……で（笑）。」

・読者の皆様には是非一言お願いいたします。

アブソル先生

「読者の皆さん。まだ未熟者ですが、これからもお願いします！」

みぞれ雪先生

「いつも『絆の冒険記』を読んで下さっている方々、本当にありがとうございます。私はまだまだ本当に駆け出しですし、未熟者ですが、皆様の心に残る物語を書けるように、これからも頑張らせていただきます！」

アブソル先生、みぞれ雪先生、ご協力ありがとうございました。

それでは皆様、またお会いいたしましょう。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9931i/>

アブソル先生とみぞれ雪先生へのインタビュー記事

2010年10月9日19時54分発行